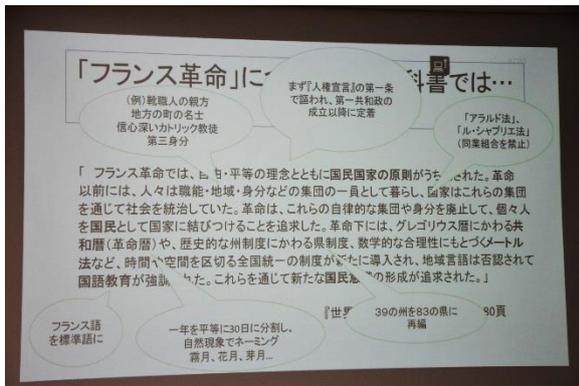


2019年度文系チャレンジ講座（第8回）を実施しました

2月5日（水）に経済学部の安田俊介先生を講師に迎え、『フランス革命』—〈国民〉と〈国家〉の成り立ちについて考えてみよう—というテーマで、文系チャレンジ講座の第8回を実施しました。遠隔配信した白杵、国東、中津南、大分商業、大分雄城台、竹田、別府翔青、三重総合の8校155名が受講しました。

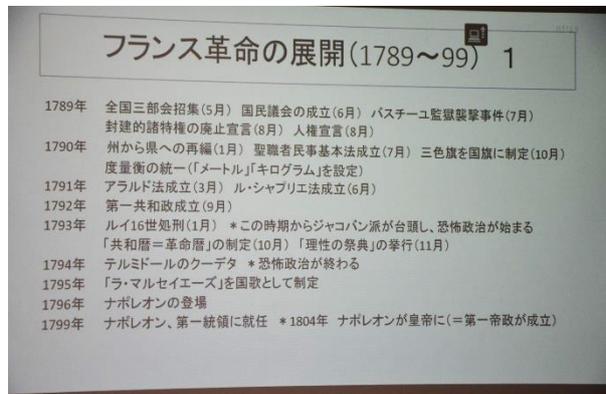


安田先生はまず、フランスの歴史、フランス革命に至るまでの国内情勢、1789年のバスチーユ監獄襲撃から10年間にわたる革命、さらに現在のフランスまでの大まかな流れについて説明していかれました。



続いて、高校生が普段用いている世界史の教科書の記述を使用して説明を続けられました。わずか10行程度の高校世界史の教科書の記述について、安田先生は多くのスライドを提示しながら、フランス革命当時のフランス社会の様子、身分制度の中で民衆の不満が高まっていった背景や、実際の革命の様子、革命後のナポレオンの登場などについて詳細に解説を加えていかれました。

さらに「国民」「国家」の概念の発生と現代への影響について、詳細に説明されました。近代社会において、「国民」や「国家」という概念がいかに重要であったか、この概念が後の世界にどのような影響を与えていったのか、国境線や統一言語の使用が戦争を有利に進めるために必要だったことなど、高校の教科書の記述内容を、幅広く、深く掘り下げて講義され、受講生に歴史学習の興味を喚起してくださいました。



講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（93%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（98%）、「受講

生は授業に意欲的に取り組んでいた」（96%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（97%）、「映像はよく見えた」（83%）という結果が出ました。受講生からは「明治維新との関連性などを知ることができ、フランス革命のイメージが変わった」「高校の授業内容より詳しいことを知ることができてよかった」「疑問の解決につながってよかった」といった感想が寄せられました。

